

図書紹介)

『美しく生きるための美容福祉 ―ジェロントロジー・美齢学』

大西 典子

抄 録

学校法人山野学苑では、「美容福祉」「美齢学」と称して20年以上、医療や福祉にケアとしての美容を取り入れることを推進している。2007年4月に最初の『美容福祉概論：その知識と実践技術』と題する図書を中央法規出版から発行以来、2009年に改訂版、2012年に三訂、2016年に四訂を発行し、時代に合わせた改訂を重ね、テキストとしても使用してきた。

本書は、およそ10年ぶりの改訂にあたり、「ジェロントロジー」「美容福祉」の視点から、内容を大きく見直すとともに、タイトルも『美しく生きるための美容福祉―ジェロントロジー・美齢学』に一新した。今後、ますます高齢社会が進む日本において、多くの人に関心を寄せていただけるよう、本文中にはイラストも多く掲載して、わかりやすく、読みやすい一冊になることを心がけて編集している。また、表紙デザインも目を引き、手に取ってもらえるよう、やさしく、温かい気持ちになるような色合いのデザインが採用されている。

編集：学校法人山野学苑、出版社：中央法規出版、発行日：2025年3月10日、言語：日本語、ページ：200p、サイズ：26cm、ISBN：978-4-8243-0189-5

キーワード：美しく生きる、美容福祉、ジェロントロジー、美齢学

I. 本書の紹介

人生100年時代といわれる現代において、「美容はケアとなり得るのか」という問いが改めて重要になっている。本書は、美容の高等教育機関である山野学苑で美容福祉の研究を重ねてきた著者が、その成果と視座を元に編集したものである。

本書で最も重視したのは、美容の技術や提供方法そのものではなく、今を生きる多様な人々を理解し、その人の本質に寄り添うことを出発点とした点にある。

もともと「福祉」という言葉は「幸せ」を意味していたが、現在では制度や支援を必要とする対象を指す言葉として使われることが多く、その意味が狭まってきた。だからこそ本書では、福祉を「美容を愉しみたい人を理解するための言葉」として捉え直し、制度論や対象区分の説明は最小限にとどめた。代わりに、多様な人々の特性を理解することを中心に据えて編集している。

また、人と社会を深く理解するためには、単一の学問領域では不十分であり、学際的な視点が不可欠である。こうした考えから、本書には山野学苑の教員に加え、青山学院大学ジェロントロジー研究所の研究者、

アピアランスケアの第一人者、美容福祉の視点をもってサロン経営に携わる実務家など、多彩な執筆者が参加している。

本書が、美容を「ケア」として捉え直し、人生100年時代をより豊かに生きるための新たな視点を提供する一冊となることを期待したい。

II. 表紙



III. 目次と構成のねらい

はじめに

第1章 美齢学と美容福祉学

第1節 超高齢社会とジェロントロジー

第2節 美齢学と美容福祉

第2章 加齢に伴う変化と美容

第1節 外見の生理的变化に対する美容

>> TOPICS 1 視覚障がいと化粧

>> TOPICS 2 難聴予防のための美容ケアの可能性

第2節 心理的・社会的変化と環境の外見への影響

>> TOPICS 3 ジブリ映画に登場するおばあちゃんの役割

第3章 健やかさを保つための美容ケア

第1節 ケアとしての美容

第2節 ヘアケアとヘアスタイル

第3節 フェイシャルケアとメイク

>> TOPICS 4 フェイシャルマッサージ効果の見える化

第4節 装い

第5節 ハンドケアとフットケア

第6節 心身の健康にかかわるケア

第4章 美容福祉の実践

第1節 接客におけるリスクマネジメント

第2節 がんサバイバーと美容

第3節 認知症の人と美容

>> TOPICS 5 認知症になっても美容室を利用し続けるために

第4節 車いす利用者と装い

第5節 ベッド上の人と美容

第6節 精神障害者、知的障害者、発達障害者と美容

>> TOPICS 6 美容室における発達障害者への対応

第7節 人生の最終段階と美容

>> TOPICS 7 家族写真の撮影

>> TOPICS 8 人生の最期のあり方

第5章 美容福祉実践における感染予防対策

第1節 新型コロナウイルス感染症予防対策とジェロントロジー

第2節 新型コロナウイルス感染症と接触時の呼気可視化研究

第3節 接触を伴うケア時の感染予防対策と注意点

第6章 美容事業の地域社会における意義と展望

第1節 地域共生社会と美容福祉・美容事業の進め方と課題

>> TOPICS 9 老人福祉法、介護保険法、障害者総合支援法の対象と

訪問理美容の関係

第2節 SDGs と美容の継続

第3節 訪問理美容事業のこれから

>> TOPICS 10 美容の専門性とボランティア
—災害時ボランティアに求められるもの

おわりに

編集・執筆者一覧

本書は巻頭で、ネイルやハンドマッサージ、足浴、メイク、ヘア施術、そして「すいこ〜ム」の活用をカラー写真で紹介し、あわせて用語一覧を掲載している。

第1章では、長寿社会の現状と社会課題を踏まえ、「ジェロントロジー」「美容福祉」「美齢学」という本書の基盤となる概念を整理している。

第2章では、加齢に伴う変化を身体的側面と心理・社会的側面から解説し、五感の変化と美容との関係にも触れることで、今後の美容ケアを考えるための視点を提示した。

第3章では、ケアとして活用される美容の具体的な手法を取り上げ、多様な実践を体系的にまとめている。

第4章では、美容提供に際して特に理解と配慮が求められる対象者に焦点を当て、それぞれの特性に応じた美容のあり方を述べている。

第5章では、青山学院大学ジェロントロジー研究所との共同研究をもとに、新型コロナウイルス感染症下で得られた感染予防に関する知見を紹介し、接触を伴う美容ケアにおける注意点を整理している。

第6章では、訪問理美容を中心に、美容事業が地域共生社会に果たす役割と今後の展望を示し、制度との関係やSDGsの観点からもその意義を論じている。

全体を通し本書が伝えたいのは、「美容」は目的そのものではなく、人がよりよく生きるためのケア手段の一つであるという点である。しかしその手段は、人が社会の中で互いに支え合い、豊かに生きていくために、大きな力を持ち得るものであると付け加えたい。